

化石魅力化プロジェクト

油木には故西川功さんが遺した化石と標本室があります。
油木協働支援センターではこの遺産を地域資源として活かす取り組みを推進しています。



ゆきの灯り

第41号
令和2（2020）年
6月発行
油木協働支援センター
TEL 82-0701
FAX 82-2228

記事監修
地域おこし協力隊
尾森武尊



化石魅力化プロジェクト始動

今から3年前の平成29年8月某日。油木コミュニティセンターで西川化石標本室を知る人や地元関係者が集まり、話し合いが行われていました。

そこで話されたのは、酒田を営んでいた西川功さんが亡くなり、数千点にも及ぶ化石や鉱物の標本が遺されている事、ご遺族には化石の扱いに詳しい人が多くはおらず、保管しておくだけでは健全な状態を保てない事などでした。化石は劣化するもの。適切な保全をしなければ失われていきます。手を打つならば今しかない。標本の中には貴重なものも含まれ、何より地元

で採取された化石は油木の歴史を語る上で大切なものです。資源として活かす方法はないか…。

地域活性化の呼び水に出来るのではないかと。地域の「歴史」「自然」「人」「文化」を一体にすれば唯一無二の大きな資源。それを「教育」「観光」「環境保全」に生かしている。西川化石標本と展示室をその中核にしよう。それが「化石魅力化プロジェクト」です。

この遺産の消失を惜しむ方々の呼びかけで、油木協働支援センターは現在その活動の中心となり、専任の地域おこし協力隊を招いて標本の保全と管理を始めました。

西川功と化石標本

西川化石標本室は西川功さんが個人で立ち上げられたもので、六千点を超える化石・岩石標本が所蔵されています。これは個人の収集としてはかなりの規模です。その中でも学習・教育効果の高い標本約千点が選ばれて展示されていました。

所蔵されている化石標本の多くは広島県、特に神石高原町付近で産出したものです。広島県では約一億年前のマグマの活動により多くの化石が失われましたが、神石高原町には化石を含む地層が多く残っています。しかし残念なことに、油木地区内で過去に化石が産出した場所には既に道路になるなどして新たな発掘が難しいことが多いです。そのため、油木の化石を見ることのできる西川化石標本室は非常に貴重な場であったといえます。



過去の化石産地（宗兼）



標本室内

西川さんが石や化石を収集されていたルーツは、小さいころに叔父が鉱山師であり化石を掘り当てることもあったからではないかと平田榮次さんが話してくださいました。

集められた化石は最初「にしかわ」の裏手にある倉庫に保管されていました。昭和四十年頃に小さな標本室をつくり、来た人が楽しくわかるよう化石を置くようになったそうです。西川化石標本室のパンフレットによると展示室立ち上げにあたって「趣味で地学の勉強を続けるうち、実物標本の必要を痛感しました。そこで、少しずつ集めた標本を収納し、その一部を展示して、同好の人達にも利用して頂く」という目的を持たれていたようです。

西川化石標本室

標本室では化石や岩石が種類・時代・産地ごとにわかりやすく並べられていました。左の写真は化石から地層の年代を知ることが出来る示準化石を集めたコーナーです。



標本室内には神石高原町で産出した化石・岩石が展示されていました。油木地区は下帝釈の石灰岩や仙養石（玄武岩）などの様々な岩石が入り組んだ地形になっていて、西川功さんはそれらを調査・研究し、この地域の地質図を作成されました（油木町史でも見ることが出来ます）。



作成された地質図



作成された解説パネル

油木地区内では約千六百万年前の地層（備北層群）で化石が多く見つかっており、標本室にも多く展示されていました。産出したのは現在も沖縄などに棲息しているオキナワアナジャコ（エビの仲間）や大きな牡蠣を始めたとした亜熱帯の汽水域に棲む動物の化石です。これは（今ではとても考えられませんが）当時の油木地区には温暖な浅瀬が広がっていたことを示しています。



牡蠣の化石



オキナワアナジャコ



神石高原町だけでなく、日本各地や世界中の化石・岩石も所蔵されています。これは地域の化石の補足をを行うために全国のコレクターの方との交換や海外産化石の購入により収集されていたそうです。



世界中の化石の中でも特にアンモナイト化石が多く展示されていました。アンモナイトは約六千万年前まで海で繁栄したイカの仲間です、世界中でたくさんの化石が発掘されています。神石高原町でも約三億年前の石灰岩から化石が見つかっており、その報告を西川功さんが大学の研究者と共に論文で発表されています。

化石を収集し、手作りの展示室で化石の知識を深め、後進に伝えようとしていた西川功さん。当時の様子を町内に住むお二人に伺いました。

平田 榮次さん

平田さんは高校二年生の時、西川さんが経営する「にしかわ酒店」でアルバイトをしていました。そんな平田さんからみた西川さんの人柄や当時の化石研究について伺いました。

れ、亡くなられるまで送られてくる英字の論文を読んでもらった。また、昭和30年頃から十年間ほど、名古屋大学の大学院生が化石の研究のために「にしかわ酒店」に宿泊することもあり、車で採取場所を案内したり、執筆した論文の添削を行ったりされていた。

西川さんは、生真面目で温厚な人だった。高校生にもよく慕われており、登下校のときに「にしかわ酒店」に寄っていた。アルバイトをしていた生徒もいた。複数の学会に入っており

平田さんは最後に『独学で英語や地学の勉強し、教授になるような人物を育てる人は西川さんの他には（身近にはいない）』と話してくださいました。



福原 秀治さん

西川標本室に今も保存されている化石にオキナワアサジャコがあります。発見当時の様子を福原さんに伺いました。

今から20年以上前、当時勤めていた建設会社で道路工事をしていた際、硬い泥岩の中からザリガニのような化石がいくつも出てき

福原さんは他にも西川さんについて『素晴らしい研究者だった。冗談も言わないが、めったに怒らない冷静で寡黙な人物だった』と話されました。

化石の保存について

化石は紫外線や温度・湿度の変化によって劣化することがあります。特に、オキナワアサジャコを始めとして、油木地区から産出した化石の一部は「瀉痢塩（しゃりえん）」という物質を含んでいます。

瀉痢塩は一見フワフワした白いホコリのようなものです。これは湿気により化石の内部に溶け込み、乾燥すると結



白い部分が「瀉痢塩（しゃりえん）」



ポロポロになってしまった化石

晶化して再び表に出てきます。湿潤と乾燥が繰り返されると、瀉痢塩の通り道となった部分がどんどん広がり、化石が傷んでポロポロになります。

このため、貴重な化石たちの姿をこれからも保っていくために瀉痢塩を取り除き、通り道となった部分を接着剤で補強する作業を行います。また、今後湿度の変化が少ない状態で保管できるように環境を整えることを検討しています。

化石魅力化プロジェクト 今後の活動

現在、化石標本の保全作業と整理作業に加え、管理を簡易にするための台帳作成作業を行っています。また、月一回で「化石魅力化の集い」というワークショップ



フィールドワークの様子

また、「にしかわ」内で油木産の化石に主眼をおいた小規模な企画展示や、出張で化石関連のワークショップをできるように計画しています。少し時間はかかるかもしれませんが、ご期待ください。本紙にて告知します。

狩猟免許講習会を開催しました

5月24日、狩猟免許（初心者）講習会を開催しました。これは昨年度中に農村環境維持・向上専門部会で発案され、鳥獣被害の減少を狙って狩猟免許保持者の増加を図るため、油木協働支援センターが主催者となり行われたものです。開催にあたっては、広島県猟友会並びに福山地区猟友会に大変なご協力をいただきました。当日は罟猟・銃猟を合わせて24名が受講



神石高原『平和の千羽鶴運動』

折り鶴献呈に向けて折り鶴を募集します。集まった折り鶴は8月に平和公園の平和の子の像に献呈する予定です。開所時間に油木協働支援センター事務所までお持ちください。数が多い場合は50羽ずつ糸に通して持込んでもいただけます。折り紙は油木コミュニティセンター・センター分室「にしかわ」にも置いてあります。自由に折ってください。平和の祈りを折り鶴に託して届けましょう。



本年の献呈詳細は未定です

2020 ゆきふるさとまつりに参加してみませんか？

今年度から油木協働支援センターがゆきふるさとまつり実行委員会の事務局となりました。そこでいろいろな団体から、実行委員を募り実行委員会を組織します。実行委員になり、ふるさとまつりを盛り上げてみませんか？



昨年度の様子

ゆきキッズクラブ

動画配信します

油木協働支援センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、1学期のゆきキッズクラブの開催を中止しました。



子どもに伝えたい「遊び」「技術」「知識」などをもちのり方待っています。お気軽にご連絡ください。

そこで、家族一緒に学び、遊べるような動画を配信することにしました。今までのゆきキッズクラブの講師にもお願ひしますが、講師になってみようという方を募集しています。例えば、現在計画し撮影中の教室は、季節の花などの、絵を楽しく描く教室、油木の伝統的な料理である柏餅やちまきを作る教室、家族で一緒に作る料理教室があります。